



本堂の前で年男、年女の檀信徒の皆さんが一齐に豆をまきました

# 形満

復刊第八号  
2010年 3月  
身延別院発行  
〒103-0001  
東京都中央区  
日本橋小伝馬町3-2  
Tel 03-3661-3996  
Fax 03-3663-2766

## 除災得幸 福は内

身延別院の節分会と星祭りが二月三日に行われました。立春の一日前で、毎年恒例の行事です。節分と言えば、豆まき。「鬼は外 福は内」と言って、豆をまくのが一般的ですが、日蓮宗の場合は「鬼は外」とは言いません。

中国の天台大師智顛(てんだいだいし・ちぎ)は、法華経「方便品」の「諸法実相・十如是」の教えを基礎として、「一念三千」の教えをつくりました。私たち人間が日常に起こす一瞬の心のはたらきの中に、三千という数に集約される宇宙法界が備わっているという理論です。「三千」には、迷いと悟り、善と悪のすべてが含まれています。私たち人間の心の中にも「鬼」がひそんでいるというわけで、その鬼を追い払っては、私たち自身を追い払ってしまうことになります。だから、「鬼は外」と言わないのです。

日蓮宗では「鬼は外 福は内」の代わりに、「除災得幸(じよさいとつこう) 福は内」と言って、豆をまいています。「除災得幸」すなわち災厄を除き、幸福を得る、というわけです。

この日、午後一時から、本堂で節分会追儺式が行われ、檀信徒約二百二十人がご祈禱をうけました。午後一時五十分の豆まきの時刻までにはたくさんのお参詣者が境内に集まりました。住職をはじめ、年男・年女の檀信徒の皆さんが「除災得幸 福は内」と言いながら、大きな杵の中から福豆や福銭をまきました。「こっちにもまいて!」「こっちまで届くようにまいて」。そんな声が境内のあちこちからあがり、参詣者は夢中になって受け止めていました。(平山)



伊豆法難で日蓮聖人を助けた船守弥三郎夫妻屋敷跡に建つ

## 御首題を いただく旅

第八回 静岡県伊東市・蓮慶寺

### 伊豆法難の霊蹟

今年一月二日の明け方、私は日蓮聖人が伊豆に配流となつて伊東の海に置き去りにされる場面の夢を見ました。「夢のお告げ」ということではありませんが、私は、はつと目覚め、今年最初の千か寺参りの行き先として、伊豆のお寺に向かうことを決めました。調べてみたら、今年には伊豆法難から、七百五十年という年。東京駅を午前八時に出発する特急「踊り子」号の切符を買つて、伊豆に向かったのです。

その日、一番印象の深かつたお寺が、蓮慶寺でした。皆さんは、日蓮聖人の一代記などで、船守弥三郎という漁夫が登場するのをご存知でしょうか。役人の船から降ろされ、まさに海中に沈もうとする岩の上で、泰然として読経唱題していた日蓮聖人の声を聞きつけ、自らの舟でお助けした漁夫です。その船守弥三郎の家の跡に建てられたと伝えられるのが蓮慶寺。伊豆急行線の川奈駅から徒歩で十分ほどで、道路右手(山側)に蓮慶寺を見つけることができました。私が訪ねたときは、檀信徒さんたちが新年のあいさつに入れかわり立ちかわり庫裡の玄関から出入りしていました。

呼び鈴を鳴らして中に入ると、ご住職の奥さんと思われる女性が応対してくれました。

「こんにちは、初めまして。千か寺参りをしている平山といいます」。私が来訪の意図



を話していると、奥さんは「日蓮宗新聞に千か寺参りの記事を書いている人ですか」と言ってくれました。話はそれますが、日蓮宗のお寺・檀信徒向けに発行されている日蓮宗新聞に、私は昨年十月から毎月一回、お参りの体験記の記事を掲載しています(二月十月号では身延別院との出会いも書きました)。

奥さんはその記事のことを覚えてくれていたのです。「住職、お客様ですよ。日蓮宗新聞に千か寺参りの記事を書いている人ですって!」。檀信徒さんたちとの対応に忙しいにもかかわらずご住職は姿を見せ、私を本堂に案内してくれました。そして、船守弥三郎夫妻のこと、日蓮聖人をかくまったとされる岩屋のことなどを、丁寧に説明してくださいました。蓮慶寺から海側へ数分下ったところには、境外仏堂として実際に御岩屋祖師堂があり、日蓮聖人を身近に感じることができました。

# 法華経寺・妙法寺へ初詣

団参に二十八人

身延別院の檀信徒の一行が一月十日、中山法華経寺荒行堂と堀之内妙法寺を、初詣をかねて参拝しました。参加したのは藤井住職はじめ檀信徒の皆さん計二十八人。一行は午前八時半にマイクロバスで当院を出発しました。最初に訪れた法

華経寺は、荒行堂の行僧をお見舞いする各地からの参拝客でたいへんな人出でした。そんな中、一行は午前十時から荒行堂でご祈祷を受けました。また、当院と縁がある、第参籠九回目で修行中の渡辺貫也上人と面会しました。午前十一時に法華経寺を出発し、同じ千葉県市川市内の総武霊園に向かいました。総武霊園では当院先師のお墓をお参りしました。最後に訪れた堀之内妙法寺では祖師堂でお開帳をしていた後、嶋田山主による御経頂戴を受けました。



妙法寺祖師堂を訪れた当院檀信徒の皆さん



総武霊園では当院先師のお墓参りをしました



法華経寺ではご祈祷の順番が来るまで休憩をしました



法華経寺でご祈祷を受けるため荒行堂に向かう檀信徒の皆さん

# 福引きで楽しいひととき 節分会



二月三日に行われた節分会では、豆まきの後、本堂で、豪華賞品の当たる福引きが行われました。年男・年女として申し込みを済ませた人を中心に毎年行っている企画です。ちなみに賞品は、帝国ホテルペア宿泊券、デジタルカメラ、女性用キャリーバッグ、時計といった豪華なものです。

また、福引き個人提供賞として、富士急ハイランドペア招待券、鶏肉詰め合わせセットなど魅力たっぷりの賞品が総代から提供されました。会場となった本堂では、檀信徒の皆さんが賞品を引き当てるたびに大きな拍手が起こっていました。



最初に福引きのルールが説明されました(写真上)



賞品を引き当てると大きな拍手が起きました(写真右)

## 総武霊園に永代供養墓

身延別院では、今春、総武霊園に永代供養墓(えいたいくようぼ)を開設します。永代供養墓について簡単にご説明しましょう。永代供養墓は、一般に、永代管理・供養をお寺や霊園が約束して販売されるお墓のことです。一区画ごとに墓石を建てるタイプや、納骨堂タイプ、共同形式の合葬墓タイプなどがあります。いずれもお寺が続く限りお墓を管理し、お盆や春秋のお彼岸などの際に供養することなどを定めています。

現代は、少子・高齢化が進み、独身世帯(一人家族の世帯)が増えるなどして、従来のような先祖代々のお墓を持ち続けることが難しくなっています。お参りする人がいなくなってしまう無縁墓も珍しくありません。永代供養墓は後継ぎがいなくても購入でき、死後の供養も請け負ってもらえるために、この十年間、ずっと注目され続けてきました。約二十年前にいくつかのお寺が最初に永代供養墓をつくって関心を集め、その後、各地のお寺や霊園に広まって、現在は全国で五百以上の永代供養墓がつけられています。

身延別院でも、多様化する家族のニーズに対応するため、永代供養墓を設けることにしました。共同形式の合葬墓タイプで、約四百人が入れるものです。現在、モニメントとなる墓石のデザインを選定する最終段階に入っています。詳細が決定しましたら、「願満」でもお知らせします。



## 寺の動き

### 新年祈禱会に二百五十人

新年祈禱会が一月一日から三日まで開かれました。身延別院の新年最初の行事です。今回も大晦日の午後十一時ごろから参詣者が訪れ始め、ご祈禱は元日午前零時の時報に合わせて始まりました。未明の午前二時半ごろまで続けられ、いったん休みをはさんで、午前八時から再び続けられました。三日間で訪れた参詣者は約



新年祈禱会で御祈禱を受ける参詣者

二百五十人に上りました。ご祈禱を終えた参詣者一人一人に、藤井住職からおとそがふるまわれました。

### 交通安全祈禱のご案内

身延別院では「交通安全祈禱」を受け付けています。檀信徒の皆さん、および車両の交通安全をご祈念いたします。木剣による修法加持祈禱を祈願者本人に行います。申し込みをされた方には車両用のお守り「写真左」をお授けします。

可能であれば祈禱される車両でこ来院ください。その際は直接、車両にもご祈願いたします。祈禱料は一車両につき五千円です。自家用車や社用車などお申し込みください。



### 今回も豆入れ奉仕

身延別院の檀信徒の皆さんが一月十九、二十日、節分会(豆まき)で用いる豆の袋詰めを行いました。当院では、まかれた豆を参詣者が持ち帰れるように、小さなビニールの袋に詰めて

います。今年も八斗分の豆が用意されました。小さな袋に詰めていく作業はたいへん根気のいることですが、檀信徒さんたちは近況報告など会話を楽しみながら、手分けして進めていました。節分会の当日、大勢の人を集めて盛大に行うことができるのも、事前に準備をしてくれる皆さんの協力があるからです。豆入れ奉仕に協力いただいたのは、以下の皆さんです。

林好江、阿久津喜美子、寺久保トシ子、石渡日出子、相羽泰則、小林聡子、北村孝子、石田光子、上遠野美津子、岡本春雄、岡本つね子、今井善子、田中京子、勝見登志子、小島喜恵子、黒石鈴子、中田弘美(敬称略)。ありがとうございました。



豆入れ奉仕に協力いただいた檀信徒の皆さん

## 青年会が夏休み寺子屋道場

身延別院青年会はこの夏、子どもたちが当院で合宿生活をする「夏休み寺子屋道場」を開催します。初めての試みです。期日は八月中の一日二日。対象となるのは、小学生から高校生までの十〜十五人程度。お寺で健やかな時を過ごしながら、あいさつや簡単な礼儀作法、思いやりの心などを子どもたちに学んでもらうのが目的です。青年会のスタッフが子どもたちと一緒にさまざまな体験に挑戦する予定です。寺子屋道場では、朝夕のお勤めのほか、掃除、写仏、バーベキュー、日本橋散策などを検討中です。詳細が決まりましたら別途お知らせします。檀信徒の皆さんのお子さん、お孫さんを寺子屋道場に預けてみてはいかがでしょうか。

## 寛文君、身延山へ

藤井住職の二男、寛文君が、三月十三日から僧道実習修生として身延山で修行生活に入りました。一年あまりにわたって、読経、作法、高座説教などを学びます。



## 新潟・妙光寺の一行が当院を団参

新潟市の角田山妙光寺の檀信徒三十人が一月十六日、当院を参拝しました。妙光寺は、日蓮聖人が佐渡流罪の折、ご一泊された旧蹟。妙光寺の一行は今回、中山法華経寺遠寿院の荒行堂で修行中のお上人をお見舞いするために上京、それに合わせて当院を参拝したものです。一行は午前十一時前に当院に到着。本堂でさっそく御開帳を受け、お題目を唱えました。



当院で御開帳を受ける新潟 妙光寺の檀信徒の皆さん

## バザーへの協力をお願い

青年会では子育て支援の活動費を得るため四月にバザーに出店します。バザーで扱う品物(新品または新品同様のもの)をお譲り下さい。ご家庭にある品物で、趣味の合わないデザインを引き出物や、必要のないのだけでも捨てるにはもったいないものなどがございましたら、青年会までお寄せ下さい。ご協力をお願いいたします。

## 今後の予定

四月 一日(木) 願満祖師御開帳  
八日(木) 花まつり、終日、甘茶供養  
十一日(日) 十三日講、法要並法話  
午後一時より

## 編集後記

願満第八号ができました。皆様のお手元に届く頃には桜は咲き始めたでしょうか。身延別院では今年十月、団参を予定しております。日時や場所など詳細が決まりましたら、お知らせいたします。皆様一人一人にとって素敵な思い出となるような旅を検討しています。どうぞ奮ってご参加下さい。

次回は八月の発行を予定しています。